

## 進捗状況の概要

本事業は、和歌山県の深刻な地域課題に向き合いつつ、豊かな自然環境と秀逸な文化資源を活かしながら、わかやまの未来を切り拓く若者を育むとともに、新たな雇用を創出し、地域への定着を図ることにより和歌山県域における地方創生に貢献することを目的とする。

平成 27 年度においては、以下の取組を行った。

### **○ COC+事業の推進体制の整備**

COC+大学である和歌山大学において、平成 27 年 11 月に COC+推進室を設置し、COC+推進コーディネーター3 名及び教育プログラム開発担当者 4 名を平成 27 年 12 月～平成 28 年 2 月にかけて順次採用することにより、本事業の実施体制の充実を図った。また、和歌山大学と事業協働機関及び事業協力大学が協議する場として、紀の国大学協議会を 12 月に設置し、その下に教育プログラム開発委員会及び事業評価・FD 委員会を設置した。さらに、和歌山県における地方創生を実現するため、新たに関西大学を加えた 8 大学、1 高専及び和歌山県との間で地方創生に係る包括連携に関する協定を平成 28 年 3 月に締結し、和歌山県内の雇用創出及び若者定着に係る事業を継続して推進する体制を整えた。

### **○ 教育プログラムの充実**

和歌山大学では、「わかやま」の地域性と固有の魅力を学ぶため開講している「わかやま」学群の科目構成を地域志向科目として見直すとともに平成 28 年度から新たに「わかやま未来学」（前期・後期）及び「わかやま海洋体験実習」（後期）を「わかやま」学群として開講するための準備を行った。その結果、「わかやま」学群は平成 28 年度に 11 科目を開講することとし、平成 28 年度入学生から「わかやま」学群を選択必修（2 単位）とすることとした。また、和歌山県全域をキャンパスとし、地域の力を借りて地域の課題に即した実践的な教育プログラムである「わかやま未来学副専攻」を平成 28 年度から実施するため、学則の一部を改正し、副専攻プログラム及びその修了認定に係る「和歌山大学副専攻プログラムに関する規則」及び「和歌山大学副専攻プログラム履修細則」を整備した。

和歌山大学 COC+推進室においては、「わかやま未来学副専攻」に地域協働セミナーを平成 28 年度に開講するための準備を行い、紀の国大学協議会の教育開発プログラム委員会で検討を行った。その結果、事業協働機関である和歌山県、紀陽銀行のほか、地域で活躍している企業等から延べ 12 人が学外講師として協力して実施することとなった。さらに、和歌山大学及び COC+参加校、協力校においては、単位互換制度の導入について検討を行った。

また、COC 認定校となった和歌山工業高等専門学校では、事業の一環として和歌山県から寄附講座として企業実践講座を受け入れる準備を行い、「わかやま学」（1 単位）、「県内インターンシップ」（2 単位）、「ベンチャー講座」（1 単位）を平成 28 年度に開講するための準備を和歌山県経営者協会の協力を得て行ったほか、和歌山県特産品の果樹や魚介類の成分分析などの学生実験が可能となるようガスクロマトグラフィシステムなどの教育設備を整えた。

### **○ 和歌山県内におけるフィールドワーク及び企業等におけるインターンシップの実施に向けた現地調査の実施**

「わかやま未来学副専攻」の地域協働自主演習において和歌山県地域をフィールドワークとして活用するため、COC+コーディネーター（教育担当）及び教育プログラム開発担当者が COC+参加校の授業担当教員と連携し現地調査を行い、その結果を「フィールドワークに向けた現地調査関連報告書」としてまとめた。

また、インターンシップの拡充のため、COC+コーディネーター（創業支援担当）が県内の企業等を訪問し、本事業の実施について協力要請を行ったほか、和歌山大学 COC+推進室において、学生の県内進学及び県内就職の状況等について分析を行った。

### **○ COC+推進事業の広報用ホームページ開設及び広報リーフレット発行の準備**

和歌山大学 COC+推進室及び広報室において、平成 28 年度に地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）広報用ホームページを開設し、さらに広報リーフレット発行の準備を行った。

（COC+大学名：和歌山大学、事業名：わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築）